

SPA100シリーズの地域別音声パラメータのその他の設定

目的

このドキュメントの目的は、SPA 100シリーズの地域音声設定で、その他のパラメータを設定する方法を示すことです。

該当するデバイス

- ・ SPA100シリーズアダプタ

[Software Version]

- ・ 1.3.1 (003)

地域音声のその他のパラメータの設定

ステップ1：電話アダプタ設定ユーティリティにログインし、[Voice] > [Regional]を選択します。[地域]ページが開きます。

The screenshot shows the 'Regional' configuration page in the SPA100 web interface. The 'Voice' tab is selected. The left sidebar shows 'Regional' as the active section. The main content area is titled 'Regional' and contains a table of call tones with their respective parameters.

Call Progress Tones	
Dial Tone:	350@-19,440@-19;10(*0/1+2)
Second Dial Tone:	420@-19,520@-19;10(*0/1+2)
Outside Dial Tone:	420@-16;10(*0/1)
Prompt Tone:	520@-19,620@-19;10(*0/1+2)
Busy Tone:	480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2)
Reorder Tone:	480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2)
Off Hook Warning Tone:	480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)
Ring Back Tone:	440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)
Ring Back 2 Tone:	440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)
Confirm Tone:	600@-16;1(.25/.25/1)
SIT1 Tone:	985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)
SIT2 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)

Buttons: Submit, Cancel, Refresh

ステップ2:[Miscellaneous]セクションまでスクロールします。

Miscellaneous			
FXS Port Impedance:	600	FXS Port Input Gain:	-3
FXS Port Output Gain:	-3	DTMF Playback Level:	-16
DTMF Twist:	2	DTMF Playback Length:	.1
Detect ABCD:	yes	Playback ABCD:	yes
Caller ID Method:	Bellcore(N.Amer,China)	FXS Port Power Limit:	3
Caller ID FSK Standard:	bell 202	Feature Invocation Method:	Default
<input type="button" value="Submit"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="Refresh"/>			

ステップ3:[FXS Port Impedance]ドロップダウンリストで、FXSポートの電気インピーダンスを設定します。Foreign Exchange Station(FXS)インターフェイスは、電話機またはファックス機器に直接接続し、呼出音、電圧、およびダイヤルトーンを供給します。オプションは次のとおりです。

- 600
- 900
- 600+2.16uF
- 900+2.16uF
- 270+750||150nF
- 220+850||120nF
- 220+820||115nF
- 200+600||100nF

ステップ4:[FXS Port Input Gain]フィールドに入力ゲインをdBで入力します。入力ゲインは10進数の3桁まで書き込むことができます。この入力値は、マイクの感度を制御します。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

ステップ5:[FXS Port Output Gain]フィールドに出力ゲインをdBで入力します。出力ゲインは10進数の3桁まで書き込むことができます。この出力値は、発動時のスピーカの感度を制御する。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

手順 6 : [DTMF Playback Level]フィールドにローカルDTMF再生レベルをdBmで入力し、最大1桁の10進数で書き込むことができます。デフォルトでは-16.0に設定されています。DTMF (デュアルトーン多重周波数) は、電話機のキーを押したときに電話機に生成される信号で、押された各キーは特定の周波数の2つのトーンを生成します

ステップ7:[DTMF Playback Length]フィールドにローカルDTMF再生時間をミリ秒で入力します。

ステップ8:DTMF再生のツイストレベルをdBminで[DTMF Twist]フィールドに入力します。

ステップ9:[Detect ABCD]ドロップダウンリストから[DTMF ABCD]のローカル検出を有効にするには、[はい]を選択します。

ステップ10:[Playback ABCD]ドロップダウンリストから[OOB DTMF ABCD]のローカル再生を有効にするには、[はい]を選択します。

ステップ11:[発信者ID方式(Caller ID Method)]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID方式を選択します。次のオプションを使用できます。

- ベルコア (中国、北米) :CID、CIDCW、VMWI。最初のリングの後に送信されるFSK (最初のリングの後に送信されるETSI FSKと同じ) (極性反転またはDTASなし)。
- DTMF (フィンランド、スウェーデン) :CIDのみ。DTMFは、極性反転 (および

DTASなし)の後、最初のリングの前に送信されます。

- ・ DTMF (デンマーク):CIDのみ。DTMFは、極性の反転がなく、DTASのない最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF:CIDのみ。DTASの後(および極性反転なし)および最初のリングの前に送信されるDTMF。
- ・ PR付きETSI DTMF:CIDのみ。DTMFは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF After Ring — CIDのみ。最初のリングの後に送信されるDTMF(極性反転またはDTASなし)。
- ・ ETSI FSK:CID、CIDCW、およびVMWI。FSKはDTASの後(ただし、極性反転は行わない)、最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。
- ・ PR付きETSI FSK(英国):CID、CIDCW、VMWI。FSKは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。極性反転は、機器がオンフックの場合にのみ適用されます。
- ・ PR付きDTMF(デンマーク):CIDのみ。DTMFは、極性反転(およびDTASなし)の後、最初のリングの前に送信されます。

注: デフォルトはBellcore(中国、N.Amer)です。

ステップ12:[FXS Port Power Limit]ドロップダウンリストから、フィールドの値を選択します。選択肢は1 ~ 8です。デフォルトは3です。

ステップ13:[Caller ID FSK]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID FSK標準を選択します。デフォルトはベル202です。

ステップ14:[Feature Invocation Method]ドロップダウンリストから、機能の呼び出しに使用する方法を選択します。オプションは、[既定]または[スウェーデン]です。デフォルトは[Default]です。

ステップ15:[送信(Submit)]をクリックして、設定変更を保存します。